



Global Village Programを実施しました！

12月3日(水)～5日(金)の3日間、校内にて1年生対象のGlobal Village Programが行われました。この研修は各クラスに5名程度の留学生をお招きし、英語のみを使用してそれぞれの国の社会問題について討論し、プレゼンを発表するものです。各クラスの代表者にお話を聞きました。

今回の取り組みを通して、私は勇氣が必要だと感じた。私は最初、失敗を恐れて何もできずにいた。でも、2日目、私はいいアイディアを思いついた。でも、非難されたらどうしようなどと思うと、声が出なかった。でも、どうしてもアイディアを捨てられなかつたから、紙に英語で書いて伝えることにした。そしたら、シニアバディがgood idea!と褒めてくれた。勇気を出して良かったと思った。それと同時に、次は声で伝えたいと思った。

1組 横山 紗奈



シニアバディの国の社会問題についてや文化の違いを議論し、日本との違いを議論し、日本との意外な共通点などに多くの刺激を受けました。難しい話題だけでなく、ミニゲームや休憩時間の会話を通じて、言葉が完璧でなくても、心が通じ合う瞬間を何度も体験しました。最後に行ったプレゼンテーションも含め、この活動で得た伝える姿勢と様々な文化を理解する視点は、単なる英語力の向上以上に、私たちを大きく成長させてくれたと感じました。ありがとうございました。

2組 谷田 楓斗

私はGlobal Villageで、正しい文法、単語ではないとしてもジェスチャーなどを用いて伝えると伝えたい事の大部分が伝わることを経験した。そこから、正しい文法、単語で伝えるのが1番だが、コミュニケーションをとる際には正しさだけでなく伝えるための手法も大事になると学んだ。これを意識しながら、今後コミュニケーションをとっていきたいと感じた。また、伝えている際に色々な人がリアクションをしているととても話しやすく、話している際の不安感がなくなっていく感じがあった。多くの人が聞き手としてリアクションをしてくれると話しやすくなると感じると私は思うため、話しやすい環境を作ることを心がけて生活したいと感じた。

3組 渡邊 彬人

今回、オーストラリアの高校生や大学生と一緒に社会問題について考えるアクティビティに参加し、視野が大きく広がったと思います。英語で意見を伝える難しさもあったが、互いに協力しながら課題を話し合うことで、環境問題が国を超えて共通する課題だと実感しました。普段の授業では得られない刺激が多く、もっと積極的に国際的なテーマに関わりたいと思える貴重な経験になりました。

4組 岩田 颯人

今回のプログラムでは、海外の文化に直接触れる貴重な経験ができた。ベノワ高校の生徒とゲームをしたり質問し合ったりする中で、英語で気持ちが伝わる楽しさを実感した。放課後に一緒に部活動を体験したことでも、新鮮でとても思い出に残っている。また、留学生の方から母国の話を聞き社会問題についての解決策を考えたことで、自分の考えを深めるきっかけになった。実際に海外と交流することの大切さを理解することができた。

5組 高橋 杏亜

自分はこのプログラムが始まる前は、英語でコミュニケーションを取ることができるのかと不安を覚えていました。ですが、プログラムにともに取り組んでくださる留学生の方（シニアバディ）と実際に話してみると、その不安はなくなりました。シニアバディは、自分達にも伝わるように、ゆっくり、ハッキリと発音をして会話をしてくださいました。また、プログラムの一環でシニアバディの出身国（ケニア）の社会問題について教えていただいたのですが、ケニアではゴミのポイ捨てが大きな問題となっていると聞き、日本と同じことを知り、改めて日本の問題とも向き合っていかないと行けないと痛感しました。

6組 加藤 巧真

正直、プログラムが始まる前は楽しみもありましたが、不安な気持ちのほうが大きかったです。しかし、実際に参加してみると周囲の人と少しずつ会話を重ねるうちに緊張や不安は自然となり、3日間を楽しく過ごすことができました。慣れない英語での生活だったため疲れを感じる場面もありましたが、会話やアクティビティなどの疲れを忘れるほど夢中で取り組むことが出来ました。また、様々な国について国際的な学びもあり、充実した3日間でした。

7組 米山 明咲